

リークの解消方法

リークが発生している場合は、以下の手順で解消します。



1. マスクのクッション部分をゆっくりひっぱり、再度フィッティングをします。これでクッション部分が顔に正しく接触します。
*この時、マスクのエルボー部分を持たないように注意して下さい。



2. リークが額やこめかみ付近で発生している場合は、側部ヘッドギアストラップで調整します。



リークが顎やほお付近で発生している場合は、下部ヘッドギアストラップで調整します。

1・2・3の工程を行ってもリークが改善しない場合は、マスクの周辺に手をかざしながら、リークの発生状況とその箇所を特定します。発生している部分に近いストラップを締め直しリークを解消します。締めすぎないように注意して下さい。

注記：過剰な締めすぎは、不快感やリーク増加の原因となります。



マスクの取り外し方

片方または両方の下部ヘッドギアクリップを外して、頭の上へ引き上げるようにすると、簡単にマスクが取り外せます。日常のマスクの装着・取り外しには下部ヘッドギアクリップを使用することをお勧めします。



各部の名称



販売名: フィットライフ トータルフェイスマスク 製造販売届出番号: 13B1X00221000088 一般医療機器

製造販売業者
株式会社フィリップス・ジャパン

〒106-0041 東京都港区麻布台1-3-1
麻布台ヒルズ森JPタワー15階

www.philips.co.jp/healthcare

睡眠・呼吸製品のお問い合わせは地域の事業所まで
※各事業所の連絡先は以下のURLで公開しています
www.philips.co.jp/SRC-Office



改良などの理由により予告なしに意匠、仕様の一部を変更することがあります。あらかじめご了承ください。詳しくは担当営業、もしくはお近くの事業所までお問い合わせください。記載されている製品名などの固有名称は、Koninklijke Philips N.V. またはその他の会社の商標または登録商標です。

© 2010 Koninklijke Philips N.V. PN 1075941 250715 R5-PDF

PHILIPS

FitLife マスクフィッティングガイド

マスクサイズの選び方

マスクのパッケージにあるサイズゲージを眉の上と下唇の下にあてます。この時、口は軽く開いた状態にします。適切なサイズのマスクを選択するには、マスククッションが口全体を覆い、また視界を妨げないサイズを選択します。クッションの上部は、額中央の眉の上に違和感なくぴったりつくようにします。クッション下部は、口と顎の間に違和感なくぴったりつくようにします。



マスク装着前の準備



マスクのヘッドギアタブを外し、緩めた位置で仮止めします。(5箇所)



下部ヘッドギアクリップの片方または両方を外します。親指と人差し指でクリップをつまみ、回転させながらクリップを押し出すようにしてマスクのフェイスプレートから外します。

マスク装着時のご注意

マスクの装着および調整時には、必ずフェイスプレートを持って下さい。エルボーは絶対に持たないようにして下さい。



マスクの装着

口は軽く開いた状態で、マスクを顔に当てます。クッションの上部は、眉のすぐ上で顔にぴったりつくようにします。クッションの下部は、下唇のすぐ下で顔にぴったりつくようにします。



ヘッドギアを頭に被せます。



下部ヘッドギアクリップの片方または両方を留めます。ヘッドギアクリップがカチッとハマるまで、指でタブにゆっくりと押し込みます。



ヘッドギアのストラップを以下の手順で調節します。

1. 側部ストラップを均等に締めます。頂部ストラップは頭頂部に位置するようにし、ストラップがクロスしている部分は後頭部の下方に位置するようにします。



2. 下部ストラップを締めます。この時、マスクのクッション部分が顔を圧迫しないようにします。



3. 必要に応じて、頂部ストラップを調節します。側部ストラップが耳にかかっている場合は、耳からわずかに離れるように頂部ストラップを調節します。



マスクの装着（続き）



正しいフィッティング

ヘッドギアはゆったりと快適にフィットするように調節します。



誤ったフィッティング

マスククッションの周囲で皮膚が盛り上がっている場合は、ヘッドギアを緩め再調節して下さい。

マスクの微調整



マスクと呼吸回路を接続します。機器の電源を入れ、空気を流します。



横になった状態で、最終調整をします。必要に応じて側部ストラップと下部ストラップを微調整し、快適にフィットするようにします。
* 圧迫しないよう締めすぎにご注意下さい。

リーク箇所の特定



実際の処方圧にし、横になった状態で口を軽く開け、頭を左右に動かしてみます。



治療の妨げになるレベルのリークが発生している箇所を特定します。